2008−2009年度

第2570地区
行田さくらロータリークラブ週報

国際ロータリー第2570地区ガバナーテーマ
「行動と感動」
ガバナー　真下　和男

夢をかたちに

李　東健会長

会長方針
足元を堀り起こそう

会　　長　田　邉　弘　司
幹　　事　高根沢　宏　一
編　　集　橋　本　恭　一
　　松　岡　園　男
　　田　島　博　夫
事 務 局　埼玉県行田市行田5-10
　　十万石スリーハートビル3F
電　　話　048（564）3000番
例会日時　火曜日12:30〜13:30
例 会 場　アドバンテストクラブハウス
　　行田市大渕８－１
電　　話　048（555）2750番
URL http://www.tvg.ne.jp/s-rotary/
撮影：斉藤　恒会員（利根大堰）
印刷：マツオカ印刷株式会社

第 1641 回（7 月 8 日）例会報告

＊点　　鐘　　田邉　弘司会長
＊ロータリーソング　　奉仕の理想
＊４つのテスト
＊会長報告　　田邉　弘司会長
＊幹事報告　　高根沢　宏一幹事
＊出席状況報告　　鈴木　敬一郎会員
＊ニコニコ報告　　飯島　千裕会員
＊クラブ協議会
　会長　　田邉弘司会長
　四大奉仕委員長
　　クラブ奉仕委員会　　新井啓介委員長
　　職業奉仕委員会　　倉持成一郎委員長
　　社会奉仕委員会　　田中利幸委員長
　　国際奉仕委員会　　田島博夫委員長

会長報告

会長　　田邉　弘司

当クラブ特別代表　故鈴木金治郎氏ご令室様　鈴木フミ子様が、平成 20 年 6 月 30 日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。7 月 7 日は七夕、童謡「たなばたさま」は大利根町出身の下総皖一（しもふさかんいち）が作曲しました。今年は下総の生誕 110 年、記念のコンサートや記念碑のある北浦和公園での合唱が催されたようです。子供の頃を思い起こしましょう。

たなばたさま　作詞：権藤はなよ・林　柳 波（りゅうは）

作曲：下総皖一（しもふさかんいち）

1　　ささの葉　さらさら
　　のきばに　ゆれるお星さま
　　きらきらきん　ぎん　砂子（すなご）

2　　五しきの　たんざく
　　わたしが　かいたお星さま
　　きらきら空から　見てる

幹事報告

幹事　　高根沢　宏一

1、本日は、クラブ協議会です。四大奉仕委員会の皆様よろしくお願い致します。
2、7 月のプログラムについて

15 日　　クラブ協議会　(各委員長)
22 日　　行田警察署担当者
　　「最近の犯罪傾向について」
29 日　　夜間例会会員卓話の後、矢澤前会長及び、新井前幹事の慰労会を行います。

報告事項

① 7月22日は、行田R.C会長・幹事が表敬訪問。

② 7月23日は、工藤行田市長を表敬訪問。

③ 7月24日は、行田さくらR.C会長・幹事が行田R.Cへ表敬訪問。

④ 四川大地震の募金ご協力ありがとうございました。(領収書　¥50000　届いております)

以　上

出席報告

鈴木　敬一郎会員

会員数	出席対象者	出席	メーキャップ	出席率
41名	41名	26名	0名	63.40%

ニコニコ報告

田辺会長

本日は、四大奉仕委員長の皆様　よろしくお願いいたします。

高根沢幹事

本日は　第二回目の例会です　クラブ協議会が行われます　四大奉仕委員長様よろしく。

清水会員

「掘り起こす主軸の力はたた神」;はたた神;は雷のことです。今朝遠雷がとどろきました。会長ほか各委員長に期待します。

松岡会員

本日の協議会四大奉仕委員長の年度方針よろしくお願いします。　「戻り梅雨四大奉仕基本かな」

松本健一会員

緊張感のある例会を望みます。

川辺会員

7月3日交換留学生ロレーナが無事成田から　メキシコに帰国致しました　ホームスティー先の家族また会員の皆様には大変お世話に成りました。ロレーナにかわりお礼申し上げます。

矢沢会員

7月3日夕刻　ロレーナが成田を飛び立ち　無事アグアスカリエンテスに帰国いたしました。一年間皆様には大変お世話に成りました　ありがとうございます。

新井会員

田辺年度　クラブ奉仕委員長を務めさせていただきます　会員皆様のご協力よろしく御願い致します

島崎会員

ロレーナさんが帰っていただきました。よかった　よかった

田島会員

先日は矢沢直前会長と川辺青少年国際交流委員長より　花束をいただきありがとうございました最後までご協力できなかった事にお詫び申し上げます　この場をお借りしてお礼申し上げます。

阿部会員

四大奉仕の各委員長年間方針の提起でいよいよ身のひきしまる思いです。

五十幡会員

前回は田辺年度の初回例会を諸用で欠席し申し訳ありませんでした　田辺年度力不足ですが頑張ります。よろしくお願いします。

斉藤会員

四大奉仕委員長さん　本日はよろしく御願い致します。

同文

戸ケ崎会員・小沢健一会員・田中清自会員・渡辺会員・前沢会員・田中利幸会員・倉持会員・鈴木会員・上原会員・飯島会員

クラブ協議会

クラブ奉仕委員会　　委員長　新井啓介

　クラブ奉仕とは、ロータリーの第一奉仕部門で、ロータリアンが、クラブを円滑に機能させるために行う次のような行為をいう。すなわち、クラブ会合に出席すること、クラブの親睦に加わること、クラブのプログラムに参加すること、委員になること、理事を務めること、会費を払うこと、クラブ外の活動においてクラブを代表することである。

　（出典：ロータリー情報マニュアル）

また、ロータリークラブを、奉仕の理念を追求し実践するロータリアンの連合体として見たとき、例会に参加することがロータリー運動の原点であり、ロータリーの例会は奉仕の理想を探求するために会員同士が切磋琢磨する自己研鑽と、奉仕の実践の源となる会員の親睦を図る場として、いかなる理由があろうとも、レクレーションや昼食を楽しむ場であってはならない。

　　(出典：ロータリーの源流)

　行田さくらRCの組織では、クラブ奉仕委員会は、出席奨励、親睦・家族、プログラム、クラブ会報・IT、雑誌・広報、スマイルの６つの小委員会を組織しています。各委員長さんは、それぞれの委員会をまとめて頂き、さらに連携を取り今年度の事業を実りあるものにして行きたいと思います。

　クラブ運営の根幹は、例会運営であり、毎週１回の例会をいかに充実した、意味のある例会とするか、またその為に関係各委員会との連携を密に取りながらクラブの運営を円滑にするための活動をしていきたいと思います。

会員皆様のご協力お願い致します。

職業奉仕委員会　　委員長　倉持成一郎

　今年度、田邉会長は「足元を掘り起こそう」をテーマにしています。

そして、真下ガバナーは５月の地区協議会に於いて「ロータリーの原点」に立ち帰って

職業奉仕をめざそうと示されました。

　それらを踏まえて職業奉仕委員会の事業計画を以下のように作成致しました。

　職業奉仕は、ロータリーの原点です。ロータリーには綱領があります。その綱領こそが職業奉仕の理念です。

職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりとして、ロータリークラブが誕生して100余年が経ちました。その歴史の過程で「四つのテスト」が承認され、又、様々な議論が展開され「職業奉仕に関する声明」「職業宣言」の採択や、「標語」の修正等、行なわれてきました。２１世紀に入り、政治、経済、教育等々、社会が大きく変化しつつあります。企業の不祥事が少なくない現在、職業の倫理観、道徳の水準、品位が崩れつつあるのではないかと思われます。今、改めて「ロータリーの原点」そして「職業奉仕」の基本・原点に立ち帰る事が必要なのではないかと思います。

今年度事業計画

：「職業奉仕」についての卓話、又は企業訪問研修

：「フレッシュ高校生社会体験活動プログラム」への協力（＊今年度も、昨年度同様の６名の会員の受け入れ協力がありました。）

社会奉仕委員会　　委員長　　田中利幸

社会奉仕作業を行うには、地域社会のニーズを把握・理解することがまず大切な事だと言及されております。この私たちの町行田の人々と共に奉仕活動を行うことにより、地域社会の生活向上と相互理解に寄与できれば喜びとなることを一番のモットーに地区の事業計画とリンクしてまいります。

「地区の本年度の事業計画」

1、さきたま古墳群を「世界遺産に」をサポート
2、腎・アイバンクの啓蒙促進と登録者の拡大
3、環境保全運動の啓蒙促進と拡大推進
4、各クラブの社会奉仕事業を掌握し、地区内他クラブに広報する。

と大きく四つの目標が掲げられました。

さきたま古墳群は、行田の遺跡であります。何らかの形でこの事業に協力して行くため、推考を委員会一同重ねてまいりますので、行田さくらロータリーの各会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

国際奉仕委員会　　委員長　田島博夫

今年度、皆様からの寄付集めを担当させていただきます。

RI 会長のテーマ「夢をかたちに」は「寄付をかたちに」

ガバナーのテーマ「行動と感動」は「行動と運動」

会長のテーマ「足元を掘り起こそう」は「会費を掘り起こそう」

今年の委員会テーマはこれで行こうと思います。

年度計画書は「もし、世界が 100 人の村だったら」（中野裕美翻訳）のアレンジですが、「もし、世界が行田さくらロータリークラブ村だったら」

クラブには２３人のアジア人、８人のヨーロッパ人、６人の南北アメリカ人、３人のアフリカ人。２１人が女性で１９人が男性。３６人が異性愛者で、４人が同性愛者です。１２人が子供で、２８人が大人、そのうち３人がお年寄りです。クラブでは４年に１人亡くなり、２人生まれるので 4 年後は１人増えます。すべての富のうち２人が６０％を持っていて、３０人が３８％を、８人が２％を分け合っています。すべてのエネルギーのうち８人が８０％を使い、３２人が２０％を分け合っています。クラブのうち０．２５人が大学の教育を受け、０．５人がコンピュータをもっています。けれど２８人は文字が読めません。

いろいろな人がいるこの村では、自分とは違う人を理解すること、相手をあるがままに受け入れること、そして、なによりも、事実を知ることが大切です。

我々の善意の寄付行為が有効克つ、本当に必要なところに届くことを期待しつつ、行動をしていきたいと思います。

また、計画書には「表彰」のページをもうけました。皆さんからいただいた寄付の金額がわかる表に変えました。

ロータリー財団委員会の橋本委員長、米山記念奨学会委員会の横川委員長、世界社会奉仕委員会の三島委員長共々1 年間よろしくお願いいたします。